

「真実は顕れつつある、これを止めることはできない」

——NSAに関するスノーデン語録

RT (Russia Today)

June 5, 2014



止めどもない地球規模の NSA（米国安全保障局）のスパイ行為を暴露するファイルは自らを語るものだが、このリークの背後にいる人物もまた多くの語るべきことをもっている。彼の最初のリークが公表されてから一年後、RT は、前 NSA 契約職員エドワード・スノーデンの、いくつかの目立って重要な言葉を拾ってみた。

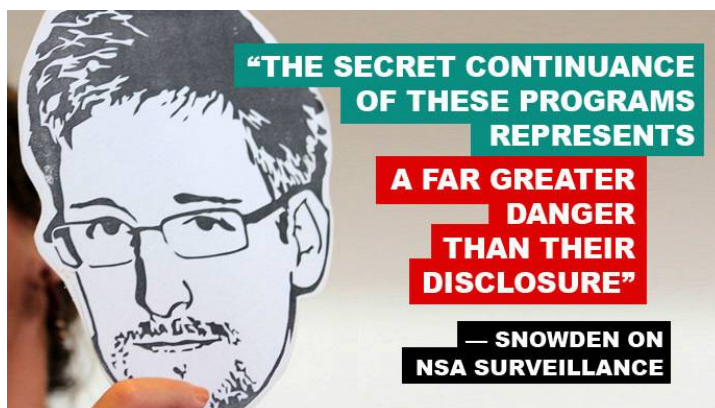
“NSA は、ほとんどすべてを傍受するインフラストラクチャを建設している”

2013 年 6 月、スノーデンは、米国安全保障局（NSA）が、国内外の米国人のインターネットおよび電話による通信を収集して分析するための、高度技術による不正なウェブ監視システムを用いていることを、世界に対して暴いた。

（詳しくは、10 things we didn't know before Snowden を参照。）

「NSA は、ほとんどあらゆることを傍受することが可能な、インフラストラクチャを建設しています。この能力によって、人間の通信の膨大な大多数が、狙いを定めることなく自動的に取り込まれています。もし私があなたの e メールや、あなたの奥さんの電話を聞き取れば、傍受したものを利用するだけでよいのです。私はあなたの e メール、パスワード

ド、電話記録、クレジット・カードを入手できます」とスノーデンは語った。



スノーデンは苦心して、極秘ドキュメントの山から NSA ファイルを選び出し、何人かの信用のおける世界のジャーナリストにこれを配布し、爆発的なリークの流れが止められないようにした。

「今のところ私が言えるのはただ、米国政府は私を投獄したり殺したりしても、これを隠蔽することはできないということです。真理は顕れつつあり、これを止めることはできません」と彼は言った。



彼がアメリカから香港へ逃げ、次にロシアに暫定的な庇護場所を見つけて以来行った、まれな公共スピーチの中で、スノーデンは、ジョージ・オーウェル流の警察国家などは、NSAの方法とは「比較にならない」ものだと言い、世界の市民に向かって、プライバシーの権利のために戦うことを呼びかけた。

「今日生まれる子供は、全くプライバシーの概念なしに育つことでしょう。彼らは、自分だけのプライベートな時間をもつとか、記録されない、分析されない思考というものが、どういふものか全く知らないでしょう」と、この警告家は語った。

米国政府へ—— “人民は脅されて怖気づくことはない”

スノーデンはアメリカ政府へ強いメッセージを送り、人民は「脅されて怖気づくことはない」、人々はプライベートな空間のない世界に住むことを望まないだろうと、彼の信念を表明した。

「私は良心にかけて、アメリカ政府が、今密かに建設しつつあるこの巨大な監視装置によって、世界中の人々のプライバシー、インターネットの自由、基本的人権を破壊することを許すことはできません。…私はプライバシーのない、したがって知的な探究や創造性の余地のない世界に住みたくはありません」と、スノーデンは言った。



アメリカ政府と彼らのメディア機関は直ちに、スノーデンを裏切り者として宣伝し始め、ある者は、彼が「FSB（ロシア連邦保安庁）の片棒担ぎになった」などと言ったけれども、この警告家は、自分の行動には愛国心というもっと強い動機があると強調した。

「私は裏切り者でも英雄でもありません。私は一人のアメリカ人です」と、スノーデンは言った。「私は牢獄を出た方がもっと役に立ってます。…私の祖国は命を捧げるに値します。」

“政治的意見を述べたために国籍を奪われ、つけ狙われる”

スノーデンはなぜ自分が、国家安全に対する脅威になるようなものは注意深く除外し、一般民衆の利益を侵害するようなものだけを暴いているのに、これほど迫害されるのか疑問だと言う。この警告家は、アメリカ政府が彼のパスポートを無効にし、「政治的信念を述べた」ために狙われているのだと言っている。

「私が自分の知っていることを一般に知らせたのは、我々すべてに影響のあることが、白日の下で、我々すべてによって議論されるようにするためで、私は世界に正義を求めたのです」とスノーデンは言い、自分の決断を後悔はしていないと付け加えた。「合衆国憲法はこうした計画を違法と定めているのに、私の政府は、一般に見ることを許されない秘密の法裁定によって、違法を合法にすることができると言っているのです。このような法裁定は、最も基本的な正義の観念、正義が行われなければならないという考えを腐敗させるだけです。非道徳的なものを、秘密の法の適用によって道徳的なものにすることはできないのです。」

“主流メディアは、非愛国的と見られたくないので政府に挑戦しない”

この元 CIA 職員によれば、アメリカの主流体制メディアの取っているホワイトハウス支持の戦略は、「人民に高い代価を支払わせている」と言っている。

「9.11 の後、アメリカの最も重要なニュース媒体の多くは、権力に対するチェックとしての彼らの役割、政府の行き過ぎを正すというジャーナリズムの責任を放棄していますが、これは、非愛国的とみなされて、ナショナリズムの高まった時代に販売部数の罰を受けないようにするためです」と、スノーデンは言う。



スノーデンによってリークされた NSA の表示ファイルには、アメリカによる監視の程度を示すヒートマップ（色分けによる可視グラフ）が含まれている。これを見ると、NSA は、ロシア人の通信よりも、アメリカ人の通信をより活発にモニターしていることがわかる。

「我々は世界の誰よりも、我々自身の人民を細かく監視しているのです」と、スノーデンは、「真実を語る」ことに対する Ridenhour 賞を受賞したときに、ワシントンへ向けたビデオを通じて語った。

「Clapper（不詳）が手をあげてアメリカ国民に向かってウソをついたとき、誰かが裁かれましたか？ 訴訟が行われましたか？ 私が姿を現わして 24 時間以内に、私に対して 3 件の告発がなされました」と、スノーデンは、アメリカの聴衆からのスタンディング・オベーションを受けながら話した。

“アメリカが経済スパイを行っていることは間違いない”

アメリカのスパイ局は、国家安全の責任を負っているだけでなく、アメリカの事業利益のために、外国の産業をもスパイしていることを、スノーデンは明らかにした。

もし「シーメンス」のような（多国籍）巨大産業が、「アメリカ合衆国の、国家安全でなく国家利益に有利と NSA が考える、何かをもっていたとしたら、彼らはきっとその情報を追跡し、そして手に入れるでしょう」と彼は明かした。

“メルケル効果”

アメリカのヨーロッパでのスパイ活動に関するスノーデンの情報リークの後、ドイツのアンゲラ・メルケル首相は、監視を正当なものと言っていたが、やがて彼女自身が NSA のリーダーに捕えられていることを知って（怒った）。スノーデンはこのようなスタンスを偽善とみなして、メルケルの名誉のために、こんな言葉さえ造語した。

「CIA が、彼らを監視する議員たちの調査に関係する文書に“無関係”のふりをしていたことは明らかで、それは由々しい憲法上の問題です。しかし、それ以上ではないとしても同じくらい問題なのは、そこにもう一つの“メルケル効果”が見られることです。これは、選挙による公職者が、何百万という普通の市民の権利が我々のスパイによって侵害されていることには全く無関心で、自分に同じことが起こっていると分ったときには、突然スキ

ヤンダルになる、というものです」と、スノーデンは米上院議員 Dianne Feinstein の言明（リンク）に言及して語った。



（オバマは歴史に名を残すための十分な時間をもつ——深淵を覗き込んで引きさがった大統領として）

スノーデンは、オバマには失望したと述べた。彼は監視プログラムに制限を加えるどころか、「システム化されたこの違法行為の調査に門を閉ざし、いくつかの法乱用プログラムを深めかつ広げたからだ。」しかし彼は、オバマはまだ引き返せない所にまでは行っておらず、この NSA の無法の監視をやめさせるための「十分な時間をもっている」と考えている。

“NSA の圧力で、EU はスパイ・ネットワークの「ヨーロッパ市場」になる”

「NSA の FAD（外交関係部門）の最も重要な活動の一つは、EU 加盟国に圧力をかけるか動機を与えて、大衆監視ができるように彼らの法を変えさせることです」と、スノーデンはロシアからの遠隔放送で証言した。「NSA やイギリスの GCHQ（政府通信本部）の弁護士たちは、法律の穴を探して、立法者によってうっかり見逃された、無差別の底引き網的監視活動を正当化するのに使える、憲法上の保護を求めようと、必死になっています。」

「その結果は、一種のヨーロッパ市場（バザール）で、そこでは、デンマークのような EU 加盟国が NSA に、盗聴センターへのアクセスを提供するが、デンマーク人については使わないという（強制しようのない）条件を設け、ドイツは NSA に別のアクセスを与えるが、ドイツ人のことは捜査しないという条件を設ける、というものです。とはいっても、2つの盗聴サイトは同じケーブル上の2点である可能性があり、NSA は、ドイツ市民がデンマークに通信するときの通信内容を容易く捕え、デンマーク人がドイツに通信するのを捕え、それでも完全に合意に従っていると考えることができます」と、スノーデンは言った。



スノーデンが怖れるのは、NSA の助けによってアメリカが、人民が鵜呑みにする外部の脅威物語によって正当化された、“トルコ暴政” 政府に変わることである。

「これらの暴露によってアメリカに生ずる結果について私は怖れるのは、何も変わらないということです。つまり人々が、事態を変えるために立ち上がって戦うのに必要な、リスクを負いたがらないことです」と、彼は心の内を洩らした。

“暗号が働いている”

NSA の取る高度技術によるプログラムと戦略にもかかわらず、スパイ経験のあるスノーデンは、すべてが徹底的に暗号化された通信は「ありえないもの」と考えている。問題は最終ポイントでの安全保護であり、これを人民が改良していかなければならない、と彼は言う。

「暗号が働いています。正しく実行された強い暗号システムは、我々が頼ることのできる数少ないものの一つです」と、スノーデンは言う。

「我々は暗号を、何か神秘的な魔術のようなものとして考えるべきではない。問題は基本的な保護です」と、スノーデンは加えた。「このように考えてみましょう。合衆国政府が膨大な調査チームを、私個人の中へ、私とジャーナリストたちとの仕事の中へ集めてくれました。が、彼らはいまだに、どんな文書がジャーナリストに渡っているか、彼らが何をもっているか、もっていないかを全く知りません——それは暗号が働いているからです。」

更に詳細は、[Snowden speaks in support of #ResetTheNet online campaign](#) を参照。